

I 自己評価

1 学校教育目標	社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質や能力を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな地域社会人を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の適性を理解し、自らの将来をデザインし、自己実現に向けて自発的に行動できる生徒 多様な人々と協調性をもって豊かな人間関係を築き、他者と協力して課題解決に取り組める生徒 地域との関わりを大切にし、地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性や能力を开花させ、将来の進路目標を実現するためのカリキュラムの編成とICT活用などによる分かりやすく個に応じた指導の実施 「探究的な学び」や教科学習、対話的な学びによる、コミュニケーション能力と自己表現力の育成 長く広い視野で自分の住む地域のことを考える心を育む教育活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動、部活動、生徒会活動などを通じて、自らの可能性に挑戦したい生徒 人との関わりやつながりを大切にし、仲間と協力しながら主体的に学びたい生徒 地域活動やボランティア活動などに主体的に参加し、地域社会で活躍したいという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」93%、「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」90%、「授業の教え方や説明がわかりやすい先生が多い」92%と、教員の学習指導に対する生徒の評価が非常に高い状態が2年続いている。 「本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」82%であり、徐々に教員のICT機器活用技術が向上し、生徒の評価も高まっている。 「本校では、外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習機会や学校行事の有無、実施方法等について、新型コロナウイルス感染症対策等を講じ、生徒の安全を最優先として適切に計画している」といった新型コロナウイルス感染症に関する対応については生徒、保護者ともに91%が当てはまるとしており、新型コロナウイルス感染症に関する対応については高い評価をいただいている。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇新学習指導要領に対応した教科教育及び教育課程の実践。 ◇観点別評価方法の確立。 ◇ICT機器等の活用による学力の向上。 		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム委員会だけでなく教科会なども活用して幅広く意見を求め、検討する。 県のICT教育企画係の助言をもとに、本校職員研修担当者、情報化推進担当者と協力しながらICT活用等を推進する。 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育課程委員会、各教科会などの実施。 (2) ICT、オンライン授業等に関する研修会や授業公開週間などの実施。他校での先進的な取組の視察。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新学習指導要領に対応した教科教育の実践状況及び観点別評価方法の確立状況。 (2) 授業におけるICT機器の活用状況。 		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会だけでなく各教科会等を実施し、新学習指導要領への対応状況と観点別評価方法の確認を繰り返し行った。 ・ICT活用に関する研修会や情報提供を行い、ICT活用に重点を置いた授業研究週間を実施した。 	①新学習指導要領対応の観点別評価ができたか。 ②職員のICT活用の意識を高め、活用を促進することができたか。	A (B) C D A (B) C D
12 成果 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領に対応した教科教育の実践と本校の状況に応じた観点別評価を行うことができた。 ○職員のICT活用の意識を高め、多くの授業でICT機器が活用されている状況を作ることができた。 ○デュアルシステム、観点別評価、新教育課程への移行への足場が固まった。 ▲新教育課程及び観点別評価、デュアルシステム等、新しい取り組みを実践するだけでなく、早期に課題を見極めていく姿勢を持つこと。 ▲年々追加される様々なICTツールに対するより有効な活用方法の研究や習得が必要である。 	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した教科教育の実践と評価を繰り返す。 ・研修会、授業研究週間などを充実させ、ICT機器の活用を推進する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月25日

【意見・要望・評価等】

- ・教員の学習指導に対する生徒の評価が非常に高い状態が続いており、高く評価できる。
- ・徐々に教員のICT機器活用技術が向上し、ICT機器の活用が学習の理解につながっていると考える生徒が増えており、評価できる。
- ・「産社総合学習発表会」は素晴らしい発表会であった。本校の「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」等での取組が間違っていなかったと感じる。
- ・ディスカッションを授業の中にさらに取り入れ、自分の意見や考えを相手に伝える表現ができるようにしてほしい。
- ・教師から教えられるだけでなく、自分たちで調べて他の人に教えることで深く理解することができるので、こうした活動を今後も継続してほしい。
- ・令和5年度に始まるデュアルシステムについては地元企業・事業所の理解も得られているので、生徒にとって実りあるものになることに期待している。